

次世代スマートメーター（低圧）の実現に向けた 調達方法について

次世代スマートメーター制度検討会
2021年1月28日

一般送配電事業者（10社）

1. 本資料の目的

＜本資料の目的＞

- 本検討会で検討される仕様の方向性にもとづき、今後一般送配電事業者にて実現方法を検討していきますが、実現にあたっては現行スマートメーターの高い品質（昨年度末 データ収集率 99.7%～99.9% 等）を維持しつつ、コストメリットのある調達が必要と考えております。
- 本資料では、一般送配電事業者にて考えている、現行スマートメーターから次世代スマートメーターへの移行を見据えた調達方法に関する検討内容について、ご説明いたします。

2. 次世代スマートメーターの調達形態

- 次世代スマートメーターの調達は、「高い品質を維持し、次世代に移行するために必要な幅広い技術確認」、「コスト比較を行いコスト低減を図る」ことが必要と考えています。
- 仕様の実現に向けては、現行システムや構築ノウハウの有効活用も考えられることから、改修方法を検討したうえで、R F I , R F P , 競争入札等を活用した調達方法を検討していきます。

	調達形態
計量部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕様公開したうえで競争入札
通信部、 F A N . W A N システム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現行システムの改修等で対応否の場合 <ul style="list-style-type: none"> ➢ R F P、競争入札等を視野に検討 ■ 現行システムの改修等で対応可の場合 <ul style="list-style-type: none"> ➢ R F I で「幅広く実現に向けた技術情報（実現方法）、参考費用」について、様々なベンダーに情報提供依頼を実施 ➢ R F I の結果より、「複数ベンダーで対応可能な場合」は R F P、または競争入札を実施 ➢ 「現行システムの知見を有効活用」する事で、品質・コストに優位性がある場合は、既存ベンダーでの対応を検討